

# 学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名

富山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	黒部市立生地小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	32	39	31	33	37	31	1	204	

研究の概要

## 1 研究主題

自らのめあてをもち、楽しく学び合う子供の育成  
 - 一人一人のよさを伸ばす支援の在り方 -

## 2 研究内容と方法

### (1) 実施学年

第1学年～第6学年 算数科

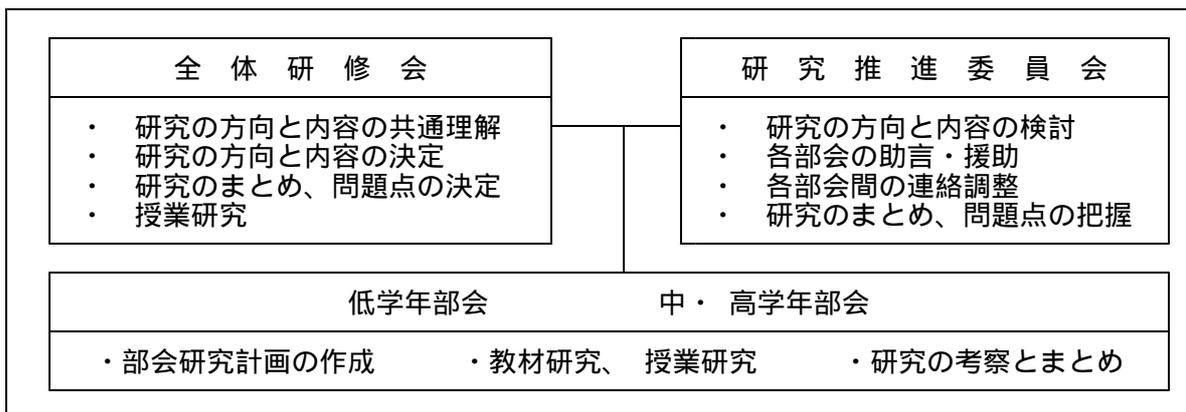
算数科は他の教科に比べ、学年が進むにつれて習熟の程度に差が出やすい。そして、それが原因で、算数に対する苦手意識をもつ子供も多い。そこで、少人数指導や個に応じた指導等を低学年から実施し、基礎・基本の定着を図るとともに算数の学習の楽しさを味わうことができるようにする。

### (2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 研究体制の確立と基礎・基本の定着を旨とする少人数指導の充実                  研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の心をゆさぶる教材との出会いを工夫することによって、追究への意欲を高め見通しをもって問題解決に取り組むことができる。</li> <li>一人一人の思いや願いを大切に、学習過程を工夫することによって、楽しく追究することができる。</li> <li>一人一人がかかわり合う場を工夫することで互いのよさに気づき、学習を深め合うことができる。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマの設定、研究内容、研究方法の検討</li> <li>算数科における少人数指導年間計画の作成</li> <li>県小教研学力調査による分析（5月）</li> <li>教研式標準学力検査CRT（目標基準準拠検査）による分析（2月）</li> <li>算数の少人数指導に関する児童・家庭の意識調査（7月・2月）</li> <li>学習規律の確立</li> <li>知的好奇心を喚起し、問題意識をもって学習に取り組むことができる教材開発</li> <li>自己評価・相互評価など評価の工夫</li> <li>TT、少人数指導による、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫</li> <li>授業実践による研究協議</li> <li>学校だより号外「フロンティア情報」の発行</li> <li>先進校訪問・先進事例による共通理解</li> <li>1年次の研究のまとめと見直し</li> </ul>

平成 16 年 度	<p>テーマ 基礎・基本の定着を旨とする指導方法・指導体制の工夫・改善 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の心をゆさぶる教材との出会いを工夫することによって、追究への意欲を高め、見通しをもって問題解決に取り組むことができる。</li> <li>一人一人の思いや願いを大切に、学習過程を工夫することによって、楽しく追究することができる。</li> <li>一人一人がかかわり合う場を工夫することで互いのよさに気づき、学習を深め合うことができる。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究体制の見直し・改善</li> <li>算数科における少人数指導年間計画の見直し</li> <li>学習規律の見直しと定着</li> <li>県小教研学力調査による分析（5月）</li> <li>教研式標準学力検査CRT（目標基準準拠検査）による分析（2月）</li> <li>算数の少人数指導に関する児童・家庭の意識調査（7月・2月）</li> <li>知的好奇心を喚起し、問題意識をもって学習に取り組むことができる教材開発</li> <li>自己評価や相互評価の工夫と評価を生かした指導の改善</li> <li>TT、少人数指導による、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫・改善</li> <li>授業実践による研究協議</li> <li>学校だより号外「フロンティア情報」の発行</li> <li>研究のまとめ</li> </ul>
--------------------	--

### (3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1 研究成果

<p>(1) 少人数指導による子供の算数に対する意識の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート（7月）の結果、「算数の学習が楽しい」「算数の学習が分かりやすい」と答えた児童が約90%いた。これは、少人数指導を導入したことで個に応じた指導がなされたからと考える。</li> </ul> <p>(2) 児童の実態や学習内容に応じた学習形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担任と少人数担当者との話し合いを密に行い、児童の実態や学習内容に応じて学習集団の編成を柔軟に工夫してきた。</li> <li>同一単元の中でもTTによる一斉指導と少人数指導とを組み合わせたり、いろいろな形態の少人数学習集団を取り入れたりした。</li> <li>学習形態を工夫し、効果的に組み合わせることで、児童の学習に対する意欲の高まり、理解の深まりを促すことができた。</li> </ul> <p>(3) 教材開発の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態を考え、具体物を用いた算数的活動や作業的な算数的活動を取り入れたことで、児童は意欲的に取り組み、実感の伴った理解を促すことができた。</li> </ul>
---

- 単元の導入や終末に、児童の生活に関連したものや身の回りの事象を教材化することで、学習したことを生活の中に生かしていこうとする態度が育つとともに、算数を学習することの大切さにも気づく児童がいた。
- (4) 基礎学力の定着を図る取り組みと学習規律の確立
- 朝の活動に「基礎学習の時間」を設け、児童に基礎学力を付けることを目的に漢字・計算の学習を行った。計算の学習では「百マス計算」を取り入れたことで「速く・正確」に計算を処理できる児童が増えた。
  - 学習の準備、ノートの使い方、生活規律など指導内容の共通理解を図り、学習規律の定着に向けて、全校体制で取り組んだ。

## 2 今後の課題

- (1) 学習意欲を高めることのできる個に応じた教材の開発
- 児童の実態から、活動を予想し意欲的にかかわることのできる教材開発に努める。
- (2) 基礎・基本の定着を旨とした学習形態（TTや少人数指導など）・指導方法の工夫・改善
- 基礎・基本が確実に身に付くよう、児童の実態や単元の内容に応じたより効果的な学習形態を工夫する。
  - 児童が互いにかかわり合いながら共に高め合い、主体的に学んでいくことができるよう、支援の在り方、指導体制を工夫する。
- (3) 基礎・基本の定着を旨とした評価の工夫とそれを生かした指導の改善
- 単元の実現状況をよりの確にとらえ、指導に生かすことができるよう算数科の年間計画、単元の評価規準を見直す。
  - 児童が、より客観的に自己評価できるように工夫をするとともに、その評価を生かした指導となるよう努める。

## 学力等把握のための学校としての取り組み

- (1) 県小教研学力調査の活用
- 全県下で実施される学力調査から、本校の児童の県全体における学力の状況を把握し、落ち込みのある問題を取り出し、指導するなど今後の学習指導に生かす。
- (2) 教研式標準学力検査CRTの活用
- 算数の学習内容の定着度を客観的に把握し、今までの取り組みを見直し、単元の構成など今後の研究や学習指導に生かす。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 公開授業（通常訪問研修を公開）
- 日時 平成15年10月23日（木）
  - 場所 生地小学校
  - テーマ 児童一人一人が、明確な目あてをもって主体的に学習に取り組むための、教材の選択・学習過程・指導に生きる評価はどうあればよいか。
  - 対象 黒部市内幼小中学校教員
- (2) 普及・広報活動
- 市内、小学校長会、教務主任会等で研究状況報告を行った。
  - 学校だより号外「フロンティア情報」で取り組みの様子や成果を紹介し、保護者に普及している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度から新規校      |
| 【学校規模】               | 7～12学級         |
| 【指導体制】               | 少人数指導、T・Tによる指導 |
| 【研究教科】               | 算数             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有              |